

環境目標と実績

主要な環境活動について目標値を定め、環境負荷の継続的な低減に努めています。

項目	単位	実績 <input checked="" type="checkbox"/>			2010年度 目標値		
		2008年度	2009年度	2010年度			
地球環境問題への取組み	供給面	販売電力量あたりのCO ₂ 排出量 []はCO ₂ 排出クレジット反映前	kg-CO ₂ /kWh	0.348 [0.374]	0.348 [0.369]	0.348 [0.385]	2008～2012年度平均の販売電力量あたりのCO ₂ 排出量を1990年度実績比20%程度低減(0.348kg-CO ₂ /kWh程度にまで低減)
		CO ₂ 排出量 []はCO ₂ 排出クレジット反映前	万吨-CO ₂	2,990 [3,210]	2,910 [3,080]	3,050 [3,370]	
		販売電力量	億kWh	859	834	875	
	原子力利用率	%	84.6	84.8	81.1	79.6 ^{※2} 以上	
	再生可能エネルギー(風力・太陽光)設備導入量(累計) ^{※3}	万kW	63	76	96	—	
	新エネルギー等電気利用量	億kWh	7.5以上	8.9以上	10.5以上	10.5以上	
	送電端火力総合熱効率(高位発熱量ベース) []は低位発熱量ベース換算値 ^{※4}	%	39.2 [41.8]	39.6 [42.2]	39.5 [42.1]	39.7 ^{※2} 以上 [42.3以上]	
	送配電ロス率	%	5.2	5.4	5.0	5.2 ^{※2} 以下	
	お客様のCO ₂ 排出抑制量 ^{※5}	万吨-CO ₂	—	9	9	9以上	
	使用面	事務所における省エネ・省資源活動	自家消費電力量	百万kWh	148	137	131
オフィス電力使用量			百万kWh	84	82	81	81以下
コピー用紙購入量			トン	557	559	539	600以下
上水使用量 ^{※6}			m ³ /人	32	32	31	36以下
運輸面での取組み		電気自動車導入台数(累計) ^{※7}	台	59	94	131	2020年度までに1,000台程度
		一般車両燃料消費率 ^{※8}	km/ℓ	12.2	12.1	12.1	12.3以上
機器点検時のSF ₆ 回収率		%	99	99	99	98以上	
機器撤去時のSF ₆ 回収率		%	99	99	99	—	
機器点検時の規制対象フロン回収実施率		%	100	100	100	100	
循環型社会形成への取組み		産業廃棄物リサイクル率	%	約100	約100	約100	99以上
	石炭灰リサイクル率	%	100	100	100	100	
	石炭灰以外リサイクル率	%	98	98	98	98以上	
	産業廃棄物社外埋立処分量	トン	349	381	143	500以下	
	古紙リサイクル率	%	100	100	100	100	
	グリーン調達率 ^{※9}	%	— ^{※10}	約100	約100	100	
地域環境の保全	火力発電電力量あたりのSO _x 排出量	g/kWh	0.20	0.20	0.27	0.2程度 ^{※2}	
	火力発電電力量あたりのNO _x 排出量	g/kWh	0.20	0.19	0.21	0.2程度 ^{※2}	
	原子力発電所周辺公衆の線量評価値(1年あたり)	ミリシーベルト	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	

※1: 2010年度目標値に対する2010年度の達成状況を、「○: 達成」、「△: 概ね達成(達成率80%以上)」、「×: 未達成(達成率80%未満)」の3段階で評価。

※2: 2010年度供給計画に基づく見直し。

※3: 自社開発及び電力購入による設備導入量。

※4: 総合エネルギー統計の換算係数等を用いて換算。

※5: 一般のご家庭に対する省エネPR、エコキュートの導入、太陽光の普及、及び法人お客さまへの電気式空調・給湯の普及、省エネ診断による当該年度の省エネ効果の積上げ。

※6: 全社の上水使用量を当社在職者数(当該年度末)で除した値。

評価 ^{※1}		関連ページ
-	原子力の安全・安定運転の継続や火力総合熱効率の高水準維持、CO ₂ 排出クレジットの活用等により、2010年度の販売電力量あたりのCO ₂ 排出量は0.348kg-CO ₂ /kWhとなり、目標レベルである1990年度実績比20%低減を達成しました。	21
○	原子力の安全・安定運転の継続に努めたこと等により、計画を上回る81.1%となりました。	
-	(2011年度から目標項目として新規に設定)	21・22
○	八丁原バイナリー発電所(地熱)等の自社電源の運用や事業者からの電力購入に努めたこと等により、目標を達成しました。	22
△	販売電力量の増加に対応するため、熱効率の低い発電所の稼働率が増加したことにより、計画を若干下回る39.5%となりました。今後とも、新大分発電所など高効率発電所の高稼働維持等により、熱効率の維持・向上に努めます。	
○	送配電設備の高効率化や設備の効率的な運用等に努めたことにより、計画を上回る5.0%となりました。	23
○	エコキュートや太陽光の普及支援等により、目標を達成しました。	
○	日常業務における省エネ活動の徹底に加え、高効率照明器具の導入等設備対策を計画的に進めたこと等により、目標を達成しました。	23・24
○	電子文書の活用によるペーパーレス化の推進やミスコピーの防止、及び古紙の裏面利用の徹底等により、目標を達成しました。	
○	社員の取組意識の向上や、水道バルブ絞り込み等の具体的な節水対策を実施したことにより、目標を達成しました。	24
-	車両配車計画に基づき、2010年度は計画通り37台導入しました。今後も、計画的に社用車への電気自動車の導入拡大を図っていきます。	
△	エコドライブの徹底や、低燃費車への計画的な切替えを行いました。目標を下回る12.1km/ℓとなりました。今後も、エコドライブに努めるなど、燃料消費率の維持・向上を図ります。	
○	設備管理部門の自主管理により、点検時における真空型SF ₆ ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。	26
-	(2011年度から目標項目として新規に設定)	
○	設備管理部門の自主管理により、法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。	
○	石炭灰の特性を活かしたセメント原料やコンクリート混和材等への石炭灰の100%有効利用に加え、共同回収による産業廃棄物の効率的な回収など、3Rの着実な実践に努めたことにより、リサイクル率、産業廃棄物社外埋立処分量ともに目標を達成しました。	27
○	グループ会社の九州環境マネジメント(株)等リサイクル会社へ確実に引き渡すなど、古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。	28
○	社内への周知徹底やお取引先との協働などにより、目標である100%をほぼ達成しました。	
△	地域との環境保全協定は遵守しているものの、販売電力量の増加に対応するため、火力発電電力量あたりのSO _x ・NO _x 排出量が比較的多い発電所の発電電力量が増加したことにより、計画値を上回りました。今後も引き続き、熱効率の維持・向上に努めることにより、排出量の低減を図っていきます。	29
○	原子力発電所における、法令にのっとった適正な設備運用や放射性廃棄物の管理により、目標を達成しました。	-

※7：プラグインハイブリッド車を含む。

※8：電気自動車(EV)は除外。

※9：調達範囲は、汎用品(事務用品、雑貨等)で社会的に認知された基準に適合した製品等。

※10：2008年1月に発覚した古紙バルブ配合率未達問題の影響により、正確なグリーン調達率の算出が困難なことから、算出を見送る。